

くすり一口メモ

骨粗鬆症治療に用いる副甲状腺ホルモン製剤について

骨粗鬆症は、骨強度の低下を特徴とし、骨折のリスクが増大しやすくなる骨格疾患です。骨粗鬆症の予防・治療の目的は骨折の予防です。骨粗鬆症による骨折の主な危険因子には、以下のようなものがあります。

- ・女性
- ・骨折の既往
- ・ステロイド薬の使用
- ・転倒しやすい
- ・カルシウム摂取不足
- ・高齢者
- ・喫煙
- ・骨折の家族歴
- ・骨吸収マーカー高値
- ・関節リウマチ
- ・低骨密度
- ・過度のアルコール摂取
- ・運動不足
- ・低体重、低BMI

骨粗鬆症では、薬物療法だけではなく、食事療法、運動療法などを行い、骨量を維持・増加する生活習慣を確立することが大切です。

骨粗鬆症の予防・治療に用いる薬剤には、活性型ビタミンD₃製剤、ビタミンK₂製剤、イブリフラボン製剤、蛋白同化ステロイド製剤、選択的エストロゲン受容体モジュレーター、エストロゲン製剤、ビスホスフォネート製剤、カルシトニン製剤、カルシウム製剤、副甲状腺ホルモン製剤があります。

今回は骨形成を促進し、骨粗鬆症を治療するという新しい作用機序で、「骨折の危険性の高い骨粗鬆症」に適應のある、副甲状腺ホルモン製剤(テリパラチド製剤)についてまとめました。

表 副甲状腺ホルモン製剤一覧

成分名	テリパラチド(遺伝子組換え)	テリパラチド酢酸塩
製品名	フォルテオ皮下注キット600μg	テリボン皮下注用56.5μg
製薬会社	日本イーライリリー株式会社	旭化成ファーマ株式会社
効能・効果	骨折の危険性の高い骨粗鬆症 低骨密度、既存骨折、加齢、大腿骨頸部骨折の家族歴等の骨折の危険因子を有する患者を対象とすること。 男性患者での安全性及び有効性は確立していない。	
用法・用量	1日1回 20μgを皮下(腹部及び大腿部)に注射する。(自己注)	56.5μgを1週間に1回皮下注射する。(医療機関にて投与)
投与期間	24ヵ月間まで	72週間まで
薬価	51,871円(1本28日分)	12,971円(4回分で51,884円)
禁忌	<ul style="list-style-type: none"> ・高カルシウム血症の患者 ・骨ペーজেット病の患者 ・原因不明のアルカリフォスファターゼ高値を示す患者 ・小児等及び若年者で骨端線が閉じていない患者 ・過去に骨への影響が考えられる放射線治療を受けた患者 ・原発性の悪性骨腫瘍もしくは転移性骨腫瘍のある患者 ・骨粗鬆症以外の代謝性骨疾患の患者(副甲状腺機能亢進症等) ・妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦 ・本剤の成分又は他のテリパラチド製剤に対し過敏症の既往症のある患者 	
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・間欠的な投与により骨形成が強力に促進される。現時点では唯一の骨形成促進薬である。 ・経口ビスホスフォネート製剤との併用について、禁忌や併用注意ではないが、効果を相殺する可能性がある。(フォルテオ) ・高カルシウム血症、高カルシウム尿症の危険性があるため、活性型ビタミンD₃製剤との併用は避ける。 ・高カルシウム血症に伴う不整脈が現れることがあるため、ジギタリス製剤との併用に注意する。 ・骨肉腫を惹起する可能性が完全に否定されていないため、投与期間に上限が設けられている。 ・一過性の血圧低下に基づくめまい、立ちくらみ、動悸などがあることがある。自動車の運転等危険を伴う作業には注意する。 ・ビスホスフォネート製剤からの切り替え時、休薬などの基準はない。 ・他の作用機序を持つ骨粗鬆症予防・治療薬との併用は、推奨されない。 ・高薬価である。(経口ビスホスフォネート製剤の1ヵ月分の薬価は約2,980円から3,750円) ・主な副作用は血中尿酸上昇、頭痛、悪心、嘔吐、倦怠感、めまい、アルカリフォスファターゼ上昇、筋痙攣、高尿酸血症、食欲不振、血中尿素上昇、肝機能異常などである。 	

実際の使用に当たっては最新の添付文書をご参照ください。

また、フォルテオ皮下注の使用については必ず添付の取扱説明書をお読みください。

参考文献 各薬剤添付文書、適正使用ガイド、総合製品情報概要、使用上の注意の解説、SAFE-DI薬効シリーズ、治療薬マニュアル 2012

(鹿児島市医師会病院薬剤部 豊住 綾子)